

ハスの花は、沼の周囲の浅い場所から湖心に向かい、徐々に咲き進みます。現在の伊豆沼・内沼では、浅い水域を中心にハスの花が見ごろを迎えつつあります。

Vol.134

令和3年度8月号

## 令和3年度、第1回 自然体験講座参加者募集

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、今年度も開催を延期していましたが自然体験講座を10月より順次開催していきます。

### 伊豆沼漁師体験参加者募集

いろいろな網を使い、魚を獲る漁師になろう。大きな魚と出会えるかもしれません。

第1回 10/3 (日)10:00~13:00

対象は小学生以上（小学生は保護者同伴）。定員は20人申込先着順。参加費は1人1,000円（昼食・保険代）。持ち物は長靴、汚れてもいい服、着替え、帽子、飲み物、タオル。

◆お申し込み方法等の詳細は、サンクチュアリセンター館内の申込用紙、またはホームページを確認願います。また、参加する皆さんの新型コロナウイルス感染防止へのご協力をお願いします。



## ジオパーク学習で小学生が来館

7月14日に栗駒南小、7月16日に志波姫小の2年生が栗駒山麓ジオパーク学習で伊豆沼・内沼サンクチュアリセンターを訪れ、体験学習活動を行いました。活動内容は、定置網とタモ網での生き物観察、虫取り網での昆虫採集を実施しました。参加した児童からは、定置網でモツゴ・タモロコなどの小魚や大きなウシガエル、60cmを超えるライギョなどにとっても驚いている様子が見られた他、チョウトンボを探して元気いっぱいにかげ回ったりして、伊豆沼の恵まれた自然環境にたくさん触れ合うことができました。



伊豆沼のまわりで昆虫採集



定置網にはウシガエルのオタマジャクシが一杯です





伊豆沼・内沼周辺だけでなく、琵琶湖（滋賀県）、狭山丘陵（埼玉・東京都県境）、高知県物部川水系、霞ヶ浦（茨城県）など全国各地から、水生植物、魚類、昆虫などをテーマとした特色ある13本の論文を掲載した、これまでで最大のボリューム（152ページ）の伊豆沼・内沼研究報告15巻を発行しました。

下記のURLからすべての論文をご覧いただけます。

<https://www.jstage.jst.go.jp/browse/izu/list/-char/ja>

## 伊豆沼・内沼の水草を展示しています

かつての伊豆沼・内沼には多種多様な水草が生育していましたが、その多くがハスの繁茂やアメリカザリガニの食害などによって姿を消してしまいました。

当財団では姿を消した水草を、埋土種子の発掘や発芽試験などの方法で復活させ、系統保存する試みを行っています。これらの水草は、生育環境が整い次第、順次沼内に植栽し、群落形成を図っていく予定です。

現在サンクチュアリセンターの入り口付近では、系統保存中の水草を一部展示しています。ぜひ一度覧頂き、伊豆沼・内沼の自然に親しんで頂ければ幸いです。



サンクチュアリセンター正面入り口付近に水草を展示しています。

## 伊豆沼・内沼生き物図鑑 ～残留ハクチョウの繁殖～

伊豆沼・内沼で越冬するオオハクチョウは、沼から真北3800kmほどの位置にある、ロシアのコリマ川中流域などで繁殖します。そのため、日本ではオオハクチョウの繁殖はみられませんが、怪我をして帰れなかったオオハクチョウが極めて稀に繁殖することがあります。今年、石巻市内の小河川でそうした残留オオハクチョウが繁殖し、5羽の雛をかえしました。ヒナの成長とともに、水田に移動して農業被害を起こすようになったため、7月中旬に県によって捕獲され、八木山動物園へ移送されました。日本では観察することのできない、オオハクチョウの繁殖の様子を垣間見ることができました。

抱卵中のメス親



生まれたばかりのオオハクチョウの雛

